

主な内容	
2面	総会・支部総会
3面	支部総会・同期会
4～5面	支部総会・寄稿
6面	同期会・寄稿
7面	維持会費納入者一覧
8面	維持会費納入者一覧・決算書
9～10面	寄稿
11面	同窓生の活躍・寄稿
12面	同期会・寄稿
13面	在校生の活躍・お知らせ
14面	お知らせ



発行所 佐渡高等学校同窓会
代表 鈴木 啓介
題字 川上治美(昭47年卒)
〒952-1322 新潟県佐渡市石田567
新潟県立佐渡高等学校内
振替 00620-3-805
☎(0259)57-2155代
FAX(0259)52-5253



修学旅行で平和を祈る(令和6年3月卒業生)

同窓会会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、同窓会活動へのご理解ご協力大変ありがとうございます。

新型コロナウイルスの蔓延もピークを過ぎて落ち着いた日常生活がもどりはじめ、穏やかな新年を迎えられたと思つていた令和6年1月1日、能登半島沖地震が発生しました。マグニチュード7.6と非常に大きな地震であり、佐渡市も震度5強と大きく揺れ、幸い人的被害は出なかったものの、住宅被害160件など含め約500件の被害が報告されています。会員の皆様は大丈夫でしたでしょうか。



ご挨拶

同窓会長
鈴木 啓介

であった石川県珠洲市に災害医療救護で派遣されましたが、能登の風景は佐渡によく似ており、活動を行いながら、もし佐渡でこのような被害にあつたらどう対処するかという思いを抱きました。地震に限らず災害は無いに越したことはありませんが、地理的に救援の手が入りにくい佐渡では普段から十分な備えをしておくことが求められます。

さて、昨年度の同窓会活動につきご報告いたします。8月には佐渡高校同窓会総会を開催しました。また、島内のみでなく、新潟、関東、関西、中部支部でも開催され、多くの同窓会会員の方々とお会いできました。参加した

令和六年四月一日付けで三条東高等学校より赴任いたしました。佐高には平成二十八、二十九年度の二年間、教頭として勤務し、その際には、同窓会の方々はじめ皆様にたいへんお世話になりました。

今回、教頭として育てていただいた佐渡に、有り難いご縁で戻って来ることができ、とても嬉しく思っております。微力ではございますが、佐高は無論、佐渡の生徒たちのため精一杯努めてまいりたいと思います。

私自身は、西蒲原郡吉田町(現燕市)で育ち、弥彦山が近いこともあり、弥彦頂上から望む日本海に浮かぶ佐渡の美しさに息をのんだ記憶もあります。その経験が学生時代に登山をしていた父母の影響が、教頭時



ご挨拶

学校長
川上 豪

代も今も、時折金北山やドデン山などに登り、雄大な風景と季節の花々を楽しんでおります。

私が教頭として在籍していた平成二十八年は、ちょうど佐高百二十周年の年であり、その記念行事の際にも、同窓会の皆様から多大なご支援をいただきました。現在でも、当時世に先駆けて普通教室全クラスに入れていただいた電子黒板を活用して、生徒が自身の目標を実現するための力を育成する授業や活動が行われております。

また、昨年度の入学生から順次、同窓会の皆様から生徒用個人ロッカーを寄贈していただいております。お陰様で校内の美化と生徒の教材等の自己管理にたいへん役立っております。改

びに、会員の皆様の愛校心や郷土への強い思いを感じます。同窓会会長としてそれに答えられるように努力していきたいと考えております。また、同窓会活動用にパソコンの購入やWiFiの整備を行い、佐渡高校同窓会のホームページや公式LINEを作りました。ぜひ一度訪問していただければと思います。

今後同窓会誌の発行に加え、SNSの整備を進めて門戸を広げ、若者にも参加しやすい同窓会にしていきたいと考えています。

現役の佐渡高校生への活

動としては、昨年度に引き続き生徒個人用ロッカーの寄付(二カ年計画の二年目)および野球部物置設置の補助、相川分校10周年記念の運動会での昼食(カレー)の提供の補助を行っています。

昨年度も多くの佐渡高校生が北信越大会などに出場し大活躍しました。特に相川分校生が全国高等学校定時制通信制バスケットボール大会で初優勝という素晴らしい成績をあげました。生徒たちは勉強やクラブ活動などの高校生活に日々頑張っておりますが、離島のため、練習試

めて感謝申し上げます。

いよいよ再来年には佐渡高校も百三十周年を迎えます。今後学校としても準備体制を構築してまいりますので、宜しくお願い申し上げます。

さて、令和三～五年度の三年間、佐渡島内五校が連携して、県事業「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」に取り組まれました。これは文科省事業「COREハイスクール・ネットワーク」構想と地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業を受けたもので、佐渡や中山間地域で遠隔授業等を通じて教育の質の維持向上を目指し、探究活動の学校間連携と地域協働体制を構築することを目的にしています。

現在でも、佐渡高校では、きめ細かく徹底した学習指導による「学習力」の向上とともに、「SaGaSuプロジェクト」で深めた、探究的な学びや他校・地域との

合などの島外への遠征などには、本土の高校生以上に大きな負担がかつております。微額ではありますが、同窓会からの激励費を増額し、生徒活動の補助になればと考えております。

また、同窓会会員である宮田亮平先生が日本芸術院会員、文化功労者に選ばれたという大変喜ばしいことがありました。お祝いを申し上げます。

この挨拶文がみなさんの目にとまる頃には佐渡金山が世界遺産になっているかどうかが決まっているかと思

の連携による「人間力」の育成に取り組んでいます。遠隔授業に関しても、引き続き県事業として地域を拡大して実践研究・検証が続けられています。

新たな学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」が目指すものは、主体的に学び自ら未来を切り拓き前進成長していく生徒を育てることだと考えます。自ら目標に向かって自身を高め続けるには、目標真理への飽くなき探究心と、冷静に軌道修正しつつ自ら前進する熱意、他者を尊重し協働していく姿勢が必要になります。それこそ佐高の校訓である「自律」「求真」「窮理」「協働」「責任」「誠実感謝」に他なりません。

これからも、学校職員と力を合わせて「学習力」と「人間力」の育成に邁進したいと思ひます。

今年度に入つての部活動(現時点で全国・北信越大会以上)について、この場をお借りして報告申し上げます。

ます。国連教育科学文化機関(ユネスコ)の諮問機関であるイコモスの評価結果は「登録」ではなく、二番目の評価である「情報照会」が適当という勧告がなされました。そのため、現時点では残念ながら世界遺産確実というわけではありませんが、すでに関係団体が勧告にそつて修正を検討しており、望みは十分にある状況です。佐渡には金山だけではなく、多くの歴史的遺跡や素晴らしい文化があります。佐渡高校の学生たちには、これらの過去を基盤として佐渡出身であることにプライドを

持ち、さらに全国や世界に向けて羽ばたいていくように、同窓会としても支援して行きたいと考えています。

2026年に佐渡高校は創立130周年を迎えます。記念式典、記念事業を計画しており、皆様のご協力ご支援が必要となります。よろしくお願ひ申し上げます。また、同窓会にご意見・要望があればいつでもご連絡ください。

最後になりますが佐渡高等学校の益々の発展と同窓会会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念いたします。

▽北信越大会出場
・陸上競技部
男子やり投げ
男女バトミントン部
学校対抗
女子バレーボール部
空手部
▽全国総合文化祭出場
・書道部
・新聞部
また相川分校において、
▽全国定通体育大会出場
・男子バスケットボール競技
・陸上競技
本稿作成時点ではありますが、以上の成績を残すことができました。今後とも在校生の活動活躍にご声援いただけますよう、お願ひ申し上げます。

改めまして、同窓生の皆様には、ますますお元氣で活躍くださいますように祈念いたしますとともに、今後とも佐渡高校へのより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

持ち、さらに全国や世界に向けて羽ばたいていくように、同窓会としても支援して行きたいと考えています。

2026年に佐渡高校は創立130周年を迎えます。記念式典、記念事業を計画しており、皆様のご協力ご支援が必要となります。よろしくお願ひ申し上げます。また、同窓会にご意見・要望があればいつでもご連絡ください。

最後になりますが佐渡高等学校の益々の発展と同窓会会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念いたします。

令和5年度佐渡高校同窓会並びに懇親会報告

令和5年8月20日(日)佐渡高校同窓会並びに懇親会が旅館浦島(窪田)で開催されました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、会員同士の懇親会の開催が出来ない状況が続いておりましたが、4年ぶりに総会に合わせて開催されました。

いさつをいただき、次回の再会を誓い、懇親会は盛会のうちに無事終了となりました。

羽茂支部 小橋敏磨

午前10時30分から総会が開催され、令和4年度事業報告、会計決算報告、令和5年度事業計画、会計予算が上程され、参加者全員の承認をいただきました。総会終了後、アトラクションに、佐渡高校吹奏楽部の部員26名による演奏会が行われ、懐かしい校歌「ひのひかり」かがよふ波に・・・、応援歌「見よこの旗のもと・・・」、蒼穹高く「蒼穹高く金北の・・・」などの曲が披露され、参加者は歌詞を口ずさみながら聞き入っていました。

4年ぶりの開催となった懇親会は、97名の参加を得て、来賓の佐渡市長から祝辞をいただき、永田治人副会長の乾杯で進められました。参加者は久しぶりの再会に歓談し、それぞれの思い出や近況に会話をはずませていました。

林隆行副会長の音頭により、佐渡高校と同窓会の発展を祈念し、参加者全員で万歳三唱を唱え、最後に次期開催支部の真野支部長山本充彦氏から閉会のあ



懇親会



総会

第35回紫苑会関東支部総会及び懇親会

佐渡女子高校同窓会「第35回紫苑会関東支部総会及び懇親会」を、令和5年11月10日(日)東京都新宿区ホテルグランドヒル市ヶ谷で、開催いたしました。

コロナ禍で、約4年ぶりの同窓会とあって、参加者は感激の喜びと「涙・涙」の再会となりました。

参加者39名(男性17名、女性22名)が集い、総会は、支部副支部長 本間淑人(S39年卒)の司会により、参加者全員の記念撮影の後、飯平支部長(S41年卒)の挨拶で始まり、終始和やかな雰囲気の中で、杯を交わしながら自己紹介や高校時代の佐渡の思い出等、また、近況報告や情報交換等に話が弾み、高度経済成長期から(就職氷河期・ブラック企業・経済低迷期等)コロナ禍で、苦難の時代を経験し、それぞれの時代を生き抜いて来た仲間達の体験談に大変感慨深いものがありました。

また、京都府城陽市から初めて参加くださいました、穂鷹邦男さん(S38年卒)の同志に会えた喜びと同窓の絆の大切さ等々、また、前支部長(堀孝二郎・S38年卒)の協力・支援による、若波会の佐渡おけさおどりを通じて(手まね・教え・思い出し)和やかな同窓の親睦を深めることが出来ました。

最後に、関東支部顧問の荒井敏彦様(S36年卒)から小学生時代の恩師の心温まる激励等のお話があり、また、今回は都合により参加出来なかった飯島美孝様(支部最高顧問S29年卒)も元気であり、次回も会員各位が連絡を取り合って、全員が元気で参加いたしましょう。との乾杯で閉会となりました。

以上

記…紫苑会関東支部役員
令和6年4月30日
紫苑会関東支部長 飯平 孝



懐かしい写真

住んでいる近くの図書館で、めずらしい写真を見つけたので、改めて投稿致します。

①は、旧金井町中興にあった植田旅館の玄関先でとった写真です。右側に立っている人は、中興に在住していた写真家です。

松本市の出版社から写真集が出版されています。

左側に立っている人は、この館主で私の伯父さんです。(昭和34年卒)

中央のイスに座っている人は、民俗学者の柳田國男氏です。

ホテルや宴会場の少ない時代に

は、よく宴会や結婚式が行われていました。(週に1〜2回)

私が在学中の石崎校長先生など、下宿している人もいました。

富山の薬売りの人など。

②は、昨今NHKでおなじみの牧野富太郎博士です。

金北山など佐渡中の植物探査に来ていたものと思われまます。

※山川出版社の「新潟県の歴史」の中に中興の植田五之八のことがのっています。(参考までに)

佐渡高校38年卒業(金井中卒)

本間 忠三郎



①



②

関東支部

第26回総会・懇親会のご案内

★日時 令和6年9月29日(日)

受付開始 10時20分

総会 11時～11時20分頃

記念講演 11時20分頃～12時頃まで

講師 本間ますみ先生(昭和61年卒)

演題 「価値観を変える挑戦」

(ペットボトルソフイスケイティドアート)

懇親会 12時10分頃～14時30分まで

○アトラクション

・YAMATOさんの熱唱ライブ

・若波会の皆さんによる佐渡民謡

★会場 学士会館 210号室

東京都千代田区神田錦町3-28

(神保町駅A9出口より徒歩2分)

03-3292-5936(代)



★会費

一般会員 10,000円

卒業後4年以内の会員 7,000円

夫婦同伴会員(一人) 8,000円

★お申し込み要領

・関東地区在住の方：同窓会報に同封(添付)の返信はがきに

切手を貼って投函して下さい。

締切は9月17日(火)です。

・その他の地区の方：佐高同窓会本部事務局または直接、関東支部事務局までご連絡下さい。

★お願い

・旧佐渡女子高校同窓会(紫苑会)の皆様のご出席をお待ちしております。

★連絡先 ご不明な点がございましたら左記まで。

・関東支部事務局

090-4171-7947 木村広幸

・本部事務局

0259-157-2155 石川万寿美(教諭)

第25回同窓会関東支部総会・懇親会を振り返って

コロナ禍明けで4年振りの開催となりました関東支部の総会・懇親会は、昨年の9月24日(日)、会場の学士会館に於いて約80名が集い、久しぶりの再会を喜び合う会となりました。

記念講演には大正大学前学長(当時)の大塚伸夫先生(昭和51年卒)をお迎えし、『地域創生と佐渡』と題したふるさと佐渡の活性化に関する活動のお話を、笑いを交えながら温かい語り口で講演いただきました。多くの出席者の真剣に聴き入る姿が目に見え付いています。

午後の懇親会は、初目見えとなります鈴木同窓会長と森川学校長(当時)のご挨拶で始まりました。

尚、森川学校長はこの日のためにわざわざ、前日の土曜日に校舎に行かれて、周囲の景色や校舎内の写真を撮ってきてくださり、スクリーンに投影して見せてくださいました。懐かしい風景であり、貴重な画像をありがとうございました。

さて、演芸は、コロナ禍明けの同窓会を祝う『春駒』で始まり、その後、乾杯から懇親会へと進みました。

メインの若波会の皆さんによる佐渡民謡ショーは歌と踊りが一体となり、両津甚句、相川音頭、佐渡おけさと進むうち、聴きなじんだ哀愁漂うメロディに、こみ上げて来るものがありました。

それから、喜寿・傘寿・米寿の方々に、最高齢(昭和23年卒)の風間昭朗さんと最年少(平成30年卒)の竹田裕徳さんを加えた皆さんに紅白饅頭をお渡しし、心ばかりのお祝いとさせていただきます。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、エンディングは皆さんで校歌を合唱し、同窓会本部事務局の石川先生による万歳三唱でお開きとなりました。

毎年、初めてお会いする方が多く、今年はどんな先輩・後輩に出会えるのかと思うと、楽しみは尽きません。

さて、事務局よりお知らせです。昨今の物価高の影響で、当会の運営も大変厳しくなっております。

そこで、苦渋の決断ではありますが、やむを得ず本年の総会・懇親会より参加費を8,000円から1万円に値上げとさせていただきます。

何卒、実情をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

佐渡高校同窓会関東支部事務局長 木村広幸 記



森川幸彦 学校長(当時)



鈴木啓介 同窓会長



大場和範 関東支部長



記念講演講師
大塚伸夫
大正大学前学長(当時)



春駒



本部事務局
石川万寿美先生

昭和40年卒喜寿同期会

令和5年9月30日、旅館浦島にて昭和40年卒業者の喜寿の集いを開催しました。参加者51名の総意で、107,260円を同窓会に寄付しました。

同期会では現役佐高野球部員にお願いし、校歌その他を歌ってもらいました。また翌日は世界遺産登録間近の相川を散策しました。

さてそこで、「ピンピンコロリ」と長生きの呪文を唱えながら、三年後の傘寿の集いを同日同所において開催するよう手配してきました。本日より先着順に受け付けますので申し込みはお早めにごうぞ。

(弾正記 昭和40年卒)



佐渡高校校歌を歌う有志 (+森川学校長(当時))



米寿、傘寿、喜寿の皆様 (+最年長、最年少)

新潟支部
令和6年度定期総会・講演会・懇親会のご案内

★日時 令和6年10月27日(日)
受付開始 10時30分
総会 11時～11時50分
記念講演 11時50分～12時50分
講師 佐渡を世界遺産にする新潟の副会長
佐々木 充 様 (昭和35年卒)
演題 佐渡から江戸へ(御金荷の道)
懇親会 13時～15時

★会場 アートホテル新潟駅前 4階「越後」
新潟市中央区笹口1-1
電話 0251-2401211



★会費

一般会員 8,000円
卒業10年以内の会員 6,000円
(総会・講演会のみ参加の場合は1,000円)

★お申し込み方法

・同窓会報に同封の返信はがき(新潟地区在住の方)、左のQRコードでお申し込みいただくか、新潟支部事務局または同窓会事務局まで電話かメールでご連絡ください。
締切り…9月11日(水)



★お願い

・紫苑会・北浜会の皆様のご出席をお待ちしています。
・新潟地区在住の方以外の参加も大歓迎です。
・若い世代の方々で同期会を開催していない卒業年の皆様には、ぜひ、出席して、同期の絆を深めてください。

★連絡先

ご不明な点がございましたら左記までご連絡ください。

新潟支部事務局
0801130611393 橋本敏郎(事務局)
0801719516130 森平雅人(事務局)
e-mail sakonigata@gmail.com
佐渡高校同窓会事務局
025915712155

佐渡高等学校同窓会 新潟支部
令和5年度定期総会・講演会・懇親会

佐渡高等学校同窓会新潟支部の令和5年度定期総会が昨年10月29日、新潟市内のホテルで開かれまし



鈴木会長

た。高野宏二郎支部長(昭和37年卒)の後任に、中山道夫さん(昭和48年卒)を選任し、支部のさらなる発展に向け、力を合わせていくことを確認しました。

新型コロナウイルスの影響で中止が続いていた総会は、令和元年以来の開催となりました。あいさつに立った高野さんは「4年ぶりに開くことができ、喜んで

森川幸彦校長(昭和57年卒)は、島外の高校とのオンライン交流をはじめ、佐高生の活動について報告。出席者は後輩たちの活躍ぶりに耳を傾けました。

でいる。対面で話す大切さを感じている。佐渡高校のますますの発展を祈りたい」と語り、学校や同窓会支部の盛り上がりをお願いしました。

恒例の講演会では、発生生物学が専門で、東京大名誉教授の浅島誠さん(昭和38年卒)が講師となり、「佐渡から研究者の道へ」をテーマに語りました。

来賓の方からは祝辞をいただきました。鈴木啓介同窓会長(昭和58年卒)は「コロナウイルス禍の中でも、佐渡高校生が大変活躍

「春先、カエルが田んぼに卵を産んだ後、どうして親の形になっていくのだろう」という少年時代の疑問を追い続けた浅島さん。生物の臓器や神経、皮膚といった組織形成に大事な役割を果たす物質が、タン



高野支部長



森川校長



浅島先生

パク質の「アクチビン」であることを世界で初めて特定しました。

自身の研究を振り返り、野生のトキを見た時の感動にも触れながら、「私の原点は佐渡にある。佐渡の自然に育てられた」と語り、研究のバックボーンに郷里があつたと強調しました。

お楽しみみの懇親会には60人ほどが出席。新たに支部長に就いた中山さんは感染

受けていました。



中山新支部長

今回、最年少の参加だった本間弘樹さん(平成15年卒)は「同窓会報を見て、佐高出身の方とつながりを持つていたなと思い、初めて参加しました。もっと若い人が来る会になるといいですね」と期待していました。



懇親会

獅子ヶ城会館の

作曲家鎌多俊与資料を見学

三橋美智也のヒット曲「哀愁列車」の作曲者鎌多俊与(佐渡中学校昭和7年卒業)の資料が獅子ヶ城会館に保管されており、5月23日私の勤務していた会社の同僚と「全国三橋美智也みちや会」の会員で同窓会事務局のご協力を得て見学しました。

資料には「哀愁列車」「佐渡の春駒」「美智也マドロス」「おけさ船歌」等の自筆原譜とキングレコード(株)の哀愁列車ヒット感謝状、武蔵野音楽大卒業書など多数保管されていました。原譜は編曲も自身で記入していましたがその丁寧な記載に皆感動しました。

原譜を前にして「哀愁列車」を全員で合唱し獅子ヶ城会館を後にしました。

(昭和44年卒業 杉澤良治)



撮影：事務局



順徳天皇と『源氏物語』の空間

山田 詩乃武 (昭和52年卒)

本年、令和六年のNHK大河ドラマは千年以上前に書かれた日本最古の長編小説『源氏物語』の作者、紫式部の生涯を描く「光る君へ」である。物語の主人公、光源氏は架空の人物であるが、天皇の子として生まれ、父帝に愛され、類稀な美貌に恵まれ、知性も教養もあり、加えて心優しく、女性たちの憧れの的であった。この人物設定の特徴は順徳天皇と重なる。ここでは『源氏物語』の波及力を順徳天皇の脈から辿ってみた。

【藤原定家】

鎌倉期、歌道における支配的地位を父、俊成と確立した歌聖、藤原定家は九条家に仕える道長の藤原北家の流れを汲む御子左家、その子孫は歌道・冷泉家として現在も受け継がれている。

定家は早くに順徳天皇の歌才を見出し、和歌の師として在位中の順徳歌壇を支えた。順徳院の佐渡配流後も和歌の判詞や朱点を行い交信は生涯続いた。定家編纂の『小倉百人一首』の五十七番目に紫式部、最後百番目には順徳院の和歌が置かれている。定家は晩年、『源氏物語』の写本、註釈を書き上げ文学史上、多大な貢献を残している。定家は順徳天皇に宮廷文化における『源氏物語』の重要性を教示したにちがいない。それを裏付ける記述が『順徳院御記』の源氏物語批評として「誠に諸道諸芸皆此の一篇に縮まる。不可説、未曾有なり」と絶賛していて、政事、恋、仏道にわたる人生観ならびに文化芸能にわたって卓越した作品と評している。博学英明な順徳天皇は広く深く物語を読み込んでいたことがわかる。そして、その影響は順徳天皇の著作である有職故実書『禁秘抄』や歌学書『八雲御抄』に王権の理想と伝統を謳う高邁な理想主義を示すものとして反映されている。佐渡郷土史学の泰斗、故山本修之助翁が順徳天皇を「文

学の天皇」と賞したことと頷ける。定家の曾孫、歌人の京極為兼は後年、佐渡に流され順徳院の行在所のひとつ八幡を訪ね院を偲び和歌を詠じた。定家は順徳院崩御の前年、八十才で泉下の客となった。

【四辻善成】

数多くの源氏物語注釈書のなかでも室町期に四辻善成によって書かれた全二十巻二十冊から成る『河海抄』は、集大成的な性格を持つ本格的な注釈書で、今日でも有効に活用されている。本居宣長は「源氏物語の註釈は河海抄ぞ第二の物なる」と激賞した。四辻善成は室町期の公家・学者・歌人で、出自は順徳天皇―善統親王―尊雅王―善成という系譜で順徳天皇の曾孫にあたる。善成の祖父である善統親王は順徳天皇の第六皇子、母親は順徳院佐渡遷幸に随行した女房・督典侍（公卿・藤原範光の女）。佐渡で生まれたという説もあるが定かではない。同母兄に第四皇子彦成王がおり王は出家し、親鸞の弟子となり佐渡に渡って院の菩提を弔い当地で薨じた。佐渡西三川地区に法名院塚が存し彦成王陵墓参考地と比定されている。善統親王は京で順徳院の実母、修明門院（藤原重子）の養子となり四辻宮と称され宮家の嚆矢とみなされている。

余談だが、鎌倉期『源氏物語』の影響を受けたといわれる『とはすがたり』という日記文学は督典侍の孫、後深草院二条という女性によるものである。

善成は曾祖父、順徳院の血を引く有能な歌人・学者として知られ人望もあつたという。善成の姉の娘、良子は室町幕府第二代將軍足利義詮に嫁し、室町幕府の最盛

期を築いた第三代將軍義満を生み、良子の妹に後田融院の生母となつた仲子がいる。縁戚に上皇と將軍がいたことは四辻家の家格の維持、善成の地位や評価もこうした出自に見合うものであつた。

【二条良基】

こうした善成の血統と才能に目をつけたのが摂政、関白、太政大臣を歴任した二条良基だった。良基は九条家から枝分かれした摂関家の一角を占める二条家第五代当主であり当時、天皇家、將軍家に最も近い能吏であるとともに歌人でもあり『源氏物語』を連歌の世界に導入し優美な連歌を生み出すことに成功した第一級の文化人でもあつた。良基は善成を猶子格とし昇進させ、將軍義詮に『河海抄』を献呈させた。

良基は日本国の実質的な支配者、足利將軍家に食い込み義詮の源氏幻想―光源氏の踐祚なき准太上天皇待遇（准上皇）―の現実化を図り『河海抄』によって歴史的先例と見做す態度を注入した。次の將軍、義満はこれを受け、母方の先祖に順徳天皇がいて自分はその血統を引く貴種として自覚すると、四辻善成を重用し皇位篡奪を企てた。誘引したのは権謀家、二条良基である。

【世阿弥】
義詮は『河海抄』をもつて幕府が政治権力のみならず文化芸能の保護者として誇示する意図があつたが、次の義満は良基とともにさらに深く踏み込み政治利用した。良基は義満の寵愛を受けていた稚児、鬼夜叉（後の世阿弥）と出会い、その舞い姿を光源氏の「青海波の舞」と重ね『源氏物語』の世界から抜け出してきたような美少年鬼夜叉を賞賛し「藤若」の名を与え

た。そして、自分の世阿弥讃が義満に伝わると急速に接近し義満の後見人の立場を獲得する。良基はまた『源氏物語』と藤若（世阿弥）を「幽玄」という言葉で評した。稚児時代の世阿弥はあまりにも美しく、あまりにも賢く、あまりにも優れた役者であつたが故に、その反動が青壯年期以降の人生を狂わせる。世阿弥は稚児時代を「時分の花」に過ぎないと切り捨て、光源氏によそえられた『源氏物語』を生涯、敬して遠ざけていた。その理由は義満時代の『源氏物語』が非常に強く政治的な意味合いを帯びていたことによる。『源氏物語』を題材とする能は「夕顔」など十曲あるが、

出版予定の拙著『憂き世をば―小説順徳天皇物語―』では順徳院が佐渡での里娘、お花に『源氏物語』の「夕顔」のくだりを語る場面がある。院は佐渡で光源氏に劣らぬ情熱的な恋歌を詠っている。

なほふかきおくとはきけとあふ事の忍ふにかきる恋のみちかな

第45回北帰会総会

2月11日(日・祝)、第45回北帰会総会を開催しました。

いまだコロナやインフルエンザの渦中ではありますが、母校同窓会本部より鈴木会長、引野副会長、関西支部より田中幹事、静岡支部より高津事務局長のご来賓をお迎えし、北帰会会員10名を加えた総勢14名で総会を開催することができました。

総会にご来賓の皆様を囲んで例年どおり母校の思い出や佐渡の話題、また、ご出席の皆様の新近報告に盛り上がり、時の経つのも忘れ楽しい一日となりました。

本年は「北帰会だより」第9号を発行しました。皆様のお陰を持ちまして9号まで発行することができました。2024年度も「北帰会だより」第10号の発行の予定です。

中部支部支部長 石塚 享二
事務局 渡邊 拓人



俳句の特典（『朱鷺』十五周年に寄せて）

赤塚 五行（駿河守、昭和44年卒）

趣味が高じ季刊俳句誌『朱鷺』を創刊して十五年になりました。三月に六十号を発行し、両津の吉田家ホテルで十五周年記念俳句大会を開催することが出来ました。当日は特別イベントとして、長年俳句の指導をしている鼓童研修生による太鼓演奏があり、翌日には吟行句会の前に正覚寺様に於いて本邦初と思われる俳句供養も行ないました。

『朱鷺』は創刊時と比べ頁数も会員数も倍増になりました。北海道から九州まで会員がおり、評論や随筆など文章を多く載せるように編集しています。五百字ほどの随筆に俳句を付けた「俳句随想」は『朱鷺』のオリジナルで、毎号四名の方が書いています。鼓童研修生の若々しい俳句や、老人ホームときわ荘の方々の楽しい俳句もあります。

最近では八王子市の女性グループが佐渡旅行に来て俳句を始められ、ユニークな作品を発表してくれました。鷺崎地区からも俳句講座の声がかかり、デイサービスかんぞうで初めて句会を開きました。職員の方や私の中学時代の同級生も参加してくれて、とても賑やかでした。

私は今、毎月島内の四か所（両津、相川、佐和田、小木）で句会を開いています。どの句会も十名ほどですが、熱心で楽しく笑い声が絶えません。島外から出席される方もいます。他にもサドテレビの「文芸教室」の講師と新潟日報「島の文芸」の選者をしていますが、それぞれ二十名、四十名ほどの方々が投句を下さいます。不思議なことに投句者が重なりません。毎回ハガキ一枚に一句だけの人もいれば、十枚に三十句も書いて下さる方もいます。俳句は誰でもすぐに作れます。

俳句のキーワードは、

① つとしたことー感動発見

② つー季語をひとつ

③ みたてー五七五のリズム

の三つで、初心者の方もベテランの方もこれが基本・原則です。これだけ意識すれば日記を書くように俳句もできます。

俳句をやっているといろいろな特典もあります（私は得10とも言っています）。

① 俳句を自分で作れる。

② 準備にお金がかからない。

③ 一人でも大勢でも楽しめる。

④ 美しい日本語に出会える。

⑤ 雨の日も楽しめる。

⑥ 虫や鳥や草が好きになる。

⑦ 誰とでも友だちになれる。

⑧ 秀句は選ばれると表彰される。

⑨ 自分史が簡単に作れる。

⑩ ポケ防止になる。

そんなわけで俳句は一生の趣味に持つて来いだと思います。

俳句に興味を持たれた方は二報いただければ、小誌『朱鷺』六十一号を無料で送らせていただきます。よろしければぜひ一緒に俳句を学びませんか。初心者の方は一年間無料で添削を受けることも出来ます。

最後に六十号より佐高OBの皆さんの作品を一句、卒業順に選びましたのでご覧下さい。

ありがとうございますの初詣

金子 俊二

墨を継ぐ硯の海も月夜かな

大場 俊一

虎落笛箆の子らの叫びかも

林 美知子

ふるさとの魚介たくさん忘れ

反町 和子

海鼠腸は日本酒が好き燗が好き

長部 憲忠

いてふ散る古刹に遊ぶ風の子ら

伊藤喜代子

木の匙も添へて仏へ七日粥

尾畑サカエ

人混みの中に一人や十二月

正本 陽子

着ぶくれも孫のおさがり若返る

渡辺ヨシ子

背に冬日世間話に知恵もらひ

鶴間美和子

マフラーの巻き方悩む女学生

絹沢 裕子

雪割草世界遺産を祈りけり

赤塚 五行

旅帰り凍てつく窓は走馬灯

天澤 敬生

スカイツリー昇龍のごと冬天へ

木下 義昭

とんちぼの見え隠れする春の畦

外内 豊明

島影に入りて安らふ冬航路

藤木 大豊

ひと鍋は故郷入れて雑煮炊く

土田まさこ

父母の口ぐせ浮かぶ冬の朝

星野 はる

ぺらぺらの応募ハガキや年の暮

田中 倫子

元旦や風に向かひて口結ぶ

篠澤 英俊

エプロンの嫁急ぎ来て初写真

若林 通子

忘年会昭和の歌で盛り上がる

日野尾雅子

地震跡の断層に立つ霜柱

菊池 健

十二月八日正義は疑はし

浜松 智弘

38年卒 同期の皆様へ

若林 光伸（昭和38年卒）

同期の皆さん、こんにちは。昨年一年お達者でお過ごしだったでしょうか？おん年80歳。いよいよ残り少ない領域に身を委ねるところまで達したようです。

私は昨年一年、波乱の人生を送りました。

私事で恐縮ですが愛妻に先立たれ、ショックで落ち込んだ毎日を送っていました。山岳会のシニア仲間が元氣付けにと登山に誘ってくれ、その下山途中に大木の根っこに足を取られ右足首を骨折。約二カ月の入院後退院、その後微熱が続く、金属アレルギーの診断を受け再手術、さらに一カ月後の入院を余儀なくされ、現在もその余震が続いています。

振り返りますと、一昨年あたりから体力の衰えを感じるようになり、週1〜2日、ウエイトで鍛えている足腰が何で？と自問するようになりました。と云うのも、毎日の生活の中で、つまづく、けつまづく、よろける、そしてズッコケルといったことが度々で、加えて何かにつかまるか、寄りかからないとズボンやパンツが履けないなど、体力の衰えを認めざるを得ない毎日を送っていました。

同期の皆さんは如何でしょう？おりや未だそこまでは・・・、と思っている人がいれば羨ましいです。

かつて、喜寿以前はアンちゃん気分。「憎まれ爺、世にはばかる」を自負していたところが懐かしいこの頃。そこで皆に紹介したい著書があります。入院中、退屈しのぎにと実兄が差し入れをしてくれた一冊の本。東大大学院出身の精神科医師の著書「80歳の壁」という書物です。

ここに書かれた内容は、「なんと、楽観的か」の心境。数例を紹介すると、「人生百年」という言葉が逆に80歳の壁を高くしているとし、食べたものの健康に悪いからと我慢する、健康のためにと無理して運動をする、好きなタバコや酒を健康に悪いらと控える、効果の実感が無いのに長生きのためにと薬をのみつづける。いずれも80歳を超えた高齢者なら、しなくてもいい我慢や無理と、もっと言えば本当はしてはいけない我慢や無理をしていると二刀両断しています。

そして、この書の末尾には「老いや衰えは受け入れ、まだある機能で勝負する」を皮切りに残存機能を残すヒントをあげています。

いくつか抜粋しますと以下のようなヒントです。

歩き続けよう、歩かないと歩けなくなる。血圧、血糖値は下げなくていい。記憶力は年齢ではなく、使わないから落ちる。自動車の運転免許は返さなくてもよい（最も事故を起こしているのは16〜19歳、次いで20〜24歳）。性的な欲があつて当然、恥ずかしがらなくていい。外に出よう、引きこもると脳は暗くなる。テレビを見続けると馬鹿になる、町に出よう。肉を食べよう、安い赤肉を。眠れなかつたら寝なくていい。脳トレよりも、楽しいことが脳にはいい。病院は、かかりつけ医をきめておく。学びを辞めたら年老いる、行動は学びの先生だ。ゆつくりと今日を生きて、終わりは決めない。

これらのうち全部を実践する必要はなく、「やってみよう」と思うものが一つでも二つでもあれば試してみよう、としめくくっています。

そこで自分流の解釈では、今後は老いを受け入れ、できることを大事にする。即ち、我慢をしないで、したいことし、食べたい物を食べて過ごす、この一言に尽きると理解しました。皆はどのように思いますか？自分分はワンカップ1本の晩酌、これからは休肝日をなくすことにしました・・・！正解でしょうか！お伺いいたします。

以上、皆、無理をしないで過ごしましょう。

若林（旧安福）記

維持会費納入者一覽表

[illegible]

[illegible]

六年間の獅子ケ城

―戦中・戦後の記憶― (その2)



本間 弘 美 (昭和26年卒)

1. 昭和天皇の『玉音放送』 ―屈辱の無条件降伏―

昭和20年8月15日。朝から薄曇の空だった。9時頃から「今日の正午に畏れ多くも天皇陛下の放送がある。どの家も全員がラジオの前に集まって拝聴せよ。」との口頭連絡が伝わってきた。隣組単位の口伝えのお知らせで、回覧板ではなかったようだ。何だろう？私は不安になった。すべての人が天皇みずからの放送(玉音放送)を聴くなんて、それまで前例のなかったことで、なにか重大な事件が起きたのではないかと、私は天皇みずから「皇国のために国民は最後の一人まで戦え」と勅命を出すのだろう、と思った。同時に私はラジオのことが気になった。(当時はTVはなかった。その頃のわが家のラジオは真空管で、キイガアと雑音が多く、ほとんど聞き取りできなかった。そこで私は家族に提案した。「隣のラジオを聴かせてもらおう。」祖母がすぐに賛成した。

わが家はこの時期、祖母、私の両親、私の兄弟4人の7人。それに6月に東京から疎開してきたばかりの伯母家族5人を加えて、12人も生活していた。そのうちの4人は6歳未

い言葉ばかり。しかもときどきピーキーガアという雑音に消されて、聴き取れなくなる。隣のラジオならよく聴こえると思っただけ。後にはほとんど分からなかった。

満の幼児。大きな家だから部屋数も多く、生活空間が狭いとは思わなかったが、毎日の家事は大変だったらしい。家長の権限は祖母が握っていた。隣家に頼みに行く、快諾してくれただけ。祖母は近所の女ボスの存在で、否とは言えなかったのかもしれない。

正午。隣家のラジオの前の板の間に、隣のおかみさん、私の祖母、疎開していた東京の伯母、それに私が集まった。他にも誰かいたような気がするが、正確な記憶がない。私の両親はいなかったようだ。まだ幼い弟たちの面倒を見ていたのか、それとも自家のキイガア・ラジオで我慢しながら聴いていたのか。

放送が始まった。天皇の声を直接聴くのは私には初めてだった。日本の国民にとっても、大部分の人には初めてだったのではないかと。その当時の日本は旧明治憲法下で、天皇は「人間」ではなく「神」と考えられていたから、その肉声を直接聴くことは日常生活ではあり得ないこと。生身の声ではなく「玉音」と表現されたのである。

言葉ばかり。しかもときどきピーキーガアという雑音に消されて、聴き取れなくなる。隣のラジオならよく聴こえると思っただけ。後にはほとんど分からなかった。

満の幼児。大きな家だから部屋数も多く、生活空間が狭いとは思わなかったが、毎日の家事は大変だったらしい。家長の権限は祖母が握っていた。隣家に頼みに行く、快諾してくれただけ。祖母は近所の女ボスの存在で、否とは言えなかったのかもしれない。

正午。隣家のラジオの前の板の間に、隣のおかみさん、私の祖母、疎開していた東京の伯母、それに私が集まった。他にも誰かいたような気がするが、正確な記憶がない。私の両親はいなかったようだ。まだ幼い弟たちの面倒を見ていたのか、それとも自家のキイガア・ラジオで我慢しながら聴いていたのか。

放送が始まった。天皇の声を直接聴くのは私には初めてだった。日本の国民にとっても、大部分の人には初めてだったのではないかと。その当時の日本は旧明治憲法下で、天皇は「人間」ではなく「神」と考えられていたから、その肉声を直接聴くことは日常生活ではあり得ないこと。生身の声ではなく「玉音」と表現されたのである。

言葉ばかり。しかもときどきピーキーガアという雑音に消されて、聴き取れなくなる。隣のラジオならよく聴こえると思っただけ。後にはほとんど分からなかった。

満の幼児。大きな家だから部屋数も多く、生活空間が狭いとは思わなかったが、毎日の家事は大変だったらしい。家長の権限は祖母が握っていた。隣家に頼みに行く、快諾してくれただけ。祖母は近所の女ボスの存在で、否とは言えなかったのかもしれない。

正午。隣家のラジオの前の板の間に、隣のおかみさん、私の祖母、疎開していた東京の伯母、それに私が集まった。他にも誰かいたような気がするが、正確な記憶がない。私の両親はいなかったようだ。まだ幼い弟たちの面倒を見ていたのか、それとも自家のキイガア・ラジオで我慢しながら聴いていたのか。

放送が始まった。天皇の声を直接聴くのは私には初めてだった。日本の国民にとっても、大部分の人には初めてだったのではないかと。その当時の日本は旧明治憲法下で、天皇は「人間」ではなく「神」と考えられていたから、その肉声を直接聴くことは日常生活ではあり得ないこと。生身の声ではなく「玉音」と表現されたのである。

言葉ばかり。しかもときどきピーキーガアという雑音に消されて、聴き取れなくなる。隣のラジオならよく聴こえると思っただけ。後にはほとんど分からなかった。

満の幼児。大きな家だから部屋数も多く、生活空間が狭いとは思わなかったが、毎日の家事は大変だったらしい。家長の権限は祖母が握っていた。隣家に頼みに行く、快諾してくれただけ。祖母は近所の女ボスの存在で、否とは言えなかったのかもしれない。

正午。隣家のラジオの前の板の間に、隣のおかみさん、私の祖母、疎開していた東京の伯母、それに私が集まった。他にも誰かいたような気がするが、正確な記憶がない。私の両親はいなかったようだ。まだ幼い弟たちの面倒を見ていたのか、それとも自家のキイガア・ラジオで我慢しながら聴いていたのか。

放送が始まった。天皇の声を直接聴くのは私には初めてだった。日本の国民にとっても、大部分の人には初めてだったのではないかと。その当時の日本は旧明治憲法下で、天皇は「人間」ではなく「神」と考えられていたから、その肉声を直接聴くことは日常生活ではあり得ないこと。生身の声ではなく「玉音」と表現されたのである。

言葉ばかり。しかもときどきピーキーガアという雑音に消されて、聴き取れなくなる。隣のラジオならよく聴こえると思っただけ。後にはほとんど分からなかった。

満の幼児。大きな家だから部屋数も多く、生活空間が狭いとは思わなかったが、毎日の家事は大変だったらしい。家長の権限は祖母が握っていた。隣家に頼みに行く、快諾してくれただけ。祖母は近所の女ボスの存在で、否とは言えなかったのかもしれない。

正午。隣家のラジオの前の板の間に、隣のおかみさん、私の祖母、疎開していた東京の伯母、それに私が集まった。他にも誰かいたような気がするが、正確な記憶がない。私の両親はいなかったようだ。まだ幼い弟たちの面倒を見ていたのか、それとも自家のキイガア・ラジオで我慢しながら聴いていたのか。

放送が始まった。天皇の声を直接聴くのは私には初めてだった。日本の国民にとっても、大部分の人には初めてだったのではないかと。その当時の日本は旧明治憲法下で、天皇は「人間」ではなく「神」と考えられていたから、その肉声を直接聴くことは日常生活ではあり得ないこと。生身の声ではなく「玉音」と表現されたのである。

2. 林準二校長の死去

戦後、旧佐渡中学校(以下「旧佐中」と略)がいつから始まったのか、私には正確な記憶はない。始業式があったのか、普通の授業がいつ再開されたのか、私には全く覚えがない。とにかく学校は二学期を始めた。私が遅刻坂を登って最初に知ったことは、林準二校長が亡くなった事だった。(『佐高80年史』によれば8月19日に胃潰瘍で死去)

葬儀は河原田の本田寺で行われ、多数の生徒が参加した。全校生徒が出席したのか、それとも指名された生徒だけだったのか不明である。私は一年四組の級長に任命されていたから、それで出席していたのかもしれない。

言葉ばかり。しかもときどきピーキーガアという雑音に消されて、聴き取れなくなる。隣のラジオならよく聴こえると思っただけ。後にはほとんど分からなかった。

満の幼児。大きな家だから部屋数も多く、生活空間が狭いとは思わなかったが、毎日の家事は大変だったらしい。家長の権限は祖母が握っていた。隣家に頼みに行く、快諾してくれただけ。祖母は近所の女ボスの存在で、否とは言えなかったのかもしれない。

正午。隣家のラジオの前の板の間に、隣のおかみさん、私の祖母、疎開していた東京の伯母、それに私が集まった。他にも誰かいたような気がするが、正確な記憶がない。私の両親はいなかったようだ。まだ幼い弟たちの面倒を見ていたのか、それとも自家のキイガア・ラジオで我慢しながら聴いていたのか。

放送が始まった。天皇の声を直接聴くのは私には初めてだった。日本の国民にとっても、大部分の人には初めてだったのではないかと。その当時の日本は旧明治憲法下で、天皇は「人間」ではなく「神」と考えられていたから、その肉声を直接聴くことは日常生活ではあり得ないこと。生身の声ではなく「玉音」と表現されたのである。

言葉ばかり。しかもときどきピーキーガアという雑音に消されて、聴き取れなくなる。隣のラジオならよく聴こえると思っただけ。後にはほとんど分からなかった。

満の幼児。大きな家だから部屋数も多く、生活空間が狭いとは思わなかったが、毎日の家事は大変だったらしい。家長の権限は祖母が握っていた。隣家に頼みに行く、快諾してくれただけ。祖母は近所の女ボスの存在で、否とは言えなかったのかもしれない。

正午。隣家のラジオの前の板の間に、隣のおかみさん、私の祖母、疎開していた東京の伯母、それに私が集まった。他にも誰かいたような気がするが、正確な記憶がない。私の両親はいなかったようだ。まだ幼い弟たちの面倒を見ていたのか、それとも自家のキイガア・ラジオで我慢しながら聴いていたのか。

放送が始まった。天皇の声を直接聴くのは私には初めてだった。日本の国民にとっても、大部分の人には初めてだったのではないかと。その当時の日本は旧明治憲法下で、天皇は「人間」ではなく「神」と考えられていたから、その肉声を直接聴くことは日常生活ではあり得ないこと。生身の声ではなく「玉音」と表現されたのである。

3. 荒れた丘再起への道開けゴマ

―旧佐中最後の学校スト事件―

昭和20年9月、戦争は終わ

動員で新潟や名古屋の軍需工

場でも働かされていた3・4年

生も8月12日には佐渡に帰り、

各自が自宅待機していた。けれども学校では、正常な6時間の授業が行われることはほとんどなく、いろいろな行事や作業で毎日が過ぎていった。林準二前校長の葬儀、各種の集会、校舎内外の清掃、物品の移動など。さらに戦時中から続いていた新穂ダム工事や、真光寺集落奥の山林作業など、校外での仕事も多かった。私にはこの年の9・10月、教室で静かに授業を受けた記憶はほとんどない。

このように作業づくめの学校の状態に、生徒は不満を持ち始め、それは次第に大きくなった。まだ一年生の私にはよく理解できなかったが、上級生には強い不満だったらしい。ことに卒業も近く、大学など上級学校受験を目指している4年生には深刻な状況だった。またいろいろな不信不満。「戦争中の生徒動員で支給されたはずの報奨金をまだもらっていない」「生徒の作業で収穫できた野菜類を教職員が横領している」「戦時中は尽忠報国を唱えていたのに、戦後はうって変わって米国崇拜を説く教師がいる。教育者として信用出来ない」等。不信不満は日々深刻になり、校舎全体に不穏な空気が広がってきたように思われた。そして10月25日、3年生が口火を切る形で、全校生徒が同盟休校を決定することになる。

(この事件について詳細は、「佐高80年史」「同百年史」をお読みいただきたい。私にはス

ト発生から収束するまでの経過を簡潔にまとめることはできない。その理由は、私事ながら10月28日に、私の家庭に突然不幸が生じ、数日間忌引きで登校できなくなった。つまりストの期間校内の状況を全く知らずに過ごしたので書けないのだ。

そこで以下は、前記の「年史」を基にして、事件の概要を記述するにとどめたいと思う。）

10月25日 この日4年生は授業。3年生は校内で薪作りの予定になっていた。(1・2年生は真光寺山林作業)しかし3年生は作業を拒否して、通学生は皆下校してしまった。彼らは学校にいろいろ不満がある

ので、それらを整理して「希望書」を作り、学校長に郵送した。その夜の宿直教員が彼らの校則違反行為を知ったのは深夜で、学校に連絡したのは翌朝になってからだった。

10月26日 教職員は会議を開き、生徒から届いた「希望書」5項目の内容の検討を始めた。

「希望書」(要点は次の5項目)
①新穂ダム工事及び山林作業は中止

②C先生の辞職

③交友会費・生徒動員報奨金の会計明示

④軍隊から復学した生徒の待遇改善

⑤農作物処理の明朗化

会議は新任校長(加治千三郎)が出張中で、教頭主宰で進められたが、②以外は大筋で生徒の希望を受け入れて

もよい、との了解で終わった。(②は、国・県・校長間で決めるべき案件なので、保留された)

一方、生徒は4年生は授業。3年生は山林作業を拒否して下校。1・2年生だけが校内で作業する結果になった。

学校は職員会議の了解事項を生徒に伝え、正常の状態に戻そうとしたが、3年生生徒は②が実現しなければ登校しないと主張する。この日は両者が納得できず、3年生は教師の制止を振り切つて下校してしまっ

た。彼らの一部は、午後の放課で遅れて下校してきた1・2年生に「明日は学校に来るな」と命じていた。

10月27日 始業時刻になつても生徒は寄宿舎生以外誰も登校せず、事実上のストに突入した。河原田の町では、電柱に

『佐中生同盟休校に入る。登校禁止』と書かれた張り紙が出され、通学路の数箇所得上級生が下級生に「帰れ」と命じて登校させなかった。学校では緊急会議を開き協議したが、前日生徒に出した指示がほとんど伝

わつていなかったこともあり、対応に苦しんだ。結局級長に登校するよう連絡し集まれた級長たちの意見も汲み取つて対処する。その時点では、級長たち

も「希望書②の要求が認められない限り生徒は登校しない」と譲歩しなかった。けれども教職員

の誠意も伝わったのか、29日以降はできるだけ登校するように連絡すると、約束して別れた。

10月28日 日曜日だったが職員は、国仲10地区に分かれて、

各地区に住む生徒との懇談会を開いた。6地区では集合した生徒たちが翌29日からの登校に同意したが、他の4地区では生徒は集まらず、流会になった。

また学校は県、警察、新聞など必要な機関に事態を報告。出張で不在だった校長も夕刻やつと帰島し、教頭から報告を受けた。

10月29日 地区別懇談会の指示にもかかわらず、登校した生徒は約四百名。しかも彼らは校庭に待機するだけで、校舎には入らなかった。

職員は9時半から会議を開き、今後の策を協議したが、最終的には校長が断を下し、(イ)1・2年生には11月2日

まで全員が家庭謹慎。(ロ)3・4年生は全員無期停学の処分を決めた。

午後1時に登校していた生徒を講堂に集め、校長から先に3・4年生生徒が提出していた希望書への回答と説明を述べた。次いで生徒への処分を申し渡した。

その後再度職員会議を開き、今後の策の補強を協議している。

また生徒から希望書で指弾されたC教諭はみずからの責任を取り、辞表を提出した。

その後 1・2年生は11月3日(旧明治節。学校では儀式が行われた)登校し、式に出た者はそのまま復学を認められた。無期停学に処された3・4年生も11月8日には全員が停学を解除された。

ストはひとまずこの日で終わったように見える。しかし10月

25日から約2週間、学校は機能不全の状態だった。これほど大きな事件は百一十年以上の校史のなかで、忘れてはならない事件だった、と言えよう。

「佐高80年史」によるとこの事件は、敗戦直後の混乱期、学校も周囲の社会も、国全体が混乱の底にある時期に起きた。戦時中には勉学の機会を奪われて、生徒動員でさんざん苦しめられた学生が、終戦後2ヶ月以上過ぎても連日の作業で、学校にいな

が満足できない学習も受けられない。加えて勤労報償金や農作物などの不明朗な分配状態など。「希望書」にある彼らの要求は、それらの不当に対しての抗議で

あり、当然の要求と考えられる。まさにこの事件は「戦後のまだ混乱している当時にあつて、すみやかに体制の切り換

えがなされぬまに、放置された学校の現状に対して、生徒の不満が爆発したもの」「80年史571頁」と考えてよいだろう。また希望書の末尾に「3・

4年生生徒一同」と提出者名を明記せず曖昧にしたのは、後日あるかもしれない学校からの処分を怖れたものか。「希望書」という表題も、一般の労働

争議のように「要求書」ではない。そこにも生徒たちの一歩引き下がった配慮が感じられる。『これまで学校を信頼してつ

いてきたものが、敗戦によって一度に吹きとび、それが「若者の正義感」によって「学校不信」にまで膨張し……エスカレート

していったというのが真相ではなからうか(「80年誌同頁」。こ

の推論もまちがっていない、と思われる。

一般論だが、学校ストは80%以上の学生の支持がなければ成功しない、と言われる。

この時の佐中のストは、3・4年の上級生が発案実行し、1・2年の下級生は、その騒ぎにまきこまれただけだった、と言えよう。彼らの大部分は何も知らず、登校しようとしたら、上級生に「学校へは行くな。帰れ」と命じられて帰宅しただけ。戦時中の「上級生の言うことには絶対服従せよ」という暴令はまだ完全に

は消えていなかったから、大半の生徒たちはこれをよいことにして、サッサと帰宅したので

ろう。1・2年生徒には全員、「家庭謹慎」の処分が下されたが、ほとんどの生徒は『じぶんは謹慎処分を受けた』という感覚は持たなかった。『赤信

号みんなで渡れば怖くない』と同じ心理が作用していたのかもしれない。

80年校史によれば、生徒から不信任されて辞職したC教諭は、後に新潟県内の他の学校に再勤務できた。最後の教師

生活は不遇だったらしいが、彼もあの無茶苦茶な戦争の犠牲者のひとりだった、と言えるのではあるまいか。

ストの後、学校は少しずつ正常に復していったように見える。校内の環境はまだひどい状態であったが、教職員も生徒も、なにか胸につかえていたものがとり除かれて、スッキリし

た感じがした。

ところでその頃、他の中学校ではどうだったのか?私の記憶では東京など大都市のいくつかの中学校(旧制)では、生徒が不満を爆発させて、ストに突入したケースがあつた。しかし新潟県内では、学校スト

の例は他にはなかったと思う。その点で佐中の当時の生徒たちは、「正義感」を抱いている。あるいは「正義感」を失うことなく、反骨の気概を保持していた……私には

そう考えられるのだが、どうだろうか?

ところで私もすでに92歳。

当時ストの中心になった生徒たちは健在ならば94・95歳。しかし大部分はすでに亡くなっているようだ。私も何人かの高齢者に当時のことを尋ねてみたが、彼らの記憶もかなり

怪しくなっていて、ここに書くことはできなかった。私自身の記憶力も最近急速に衰えているが、当時の事象には多少

自信がある。ここには自信のあるものだけ選んで書いたつもりである。

戦後も歳月が過ぎ、戦時中の多くの事実の真相が明らかになってきた。日本の戦争指導本部(大本営)が公表していた情報

ながら独立国として再出発できるようになった。当時の戦争に対する国民意識は、一言で言えば、「不戦」に固まっていたと思う。それはその後も長く続いて、現在も国民の不戦への意識は強いものがある、と私は考えている。

だがここ数年「不戦」への志向熱意は冷めてきたようだ。プーチンのロシアによるウクライナ侵攻戦争など、国際情勢は予断を許さぬ側面をはらんでいる。そういう空気の中で、日本人の平和志向の熱意度が薄れてきたとすれば、それは憂うべきことだ。

80年前の佐中生のストは、戦争が残した汚い滓を拭い取る点で、大きな一歩になった、と私は考えている。あの自由がない貧しい時代を生き抜いたたくましき、反骨の気概を、今の佐高生諸君にも保持してもらいたいと私は念じている。

昨年私が寄稿した「6年間の獅子ヶ城(その1)」では、書きたいことが多過ぎて書ききれなかった。今回はそれを補うつもりで書き始めたのだが、「終戦の日」と「同盟休校」の2編だけで、もう紙面は満杯になりそうだ。高齢者で体調の衰えもある。昨年末に小腸ヘルニアの手術をうけた身体で、医師から「無理は厳禁」と言われている。そんな訳で今回の(その2)は、こゝまでにさせて頂きたい。もし諸般の事情が許してくれ、ば(その3)は来年以降にさせて下さい。百歳まで生きて頑張るつもりです。

同窓生の活躍

★叙勲

○天池範夫

(昭和29年 金沢高等学校卒)



令和6年4月「旭日単光章」
綬章

元佐渡女子高校 紫苑会会長
(佐高と統合前まで)

元金井町議

現佐渡高等学校同窓会顧問

○眞藤 紀元

(昭和33年 佐渡高校卒)

令和6年4月「瑞宝双光章
(地方自治功労)」綬章

元佐和田町役場助役

蒼穹の下の蕾

山本 愛紗 (令和6年卒)

令和6年3月卒業の山本愛紗と申します。現在は新潟大学理学部の1年生です。

私は大好きな新潟で好きな化学を学びながら、小学生の頃から夢であった教員を目指すため、新潟大学に進学しました。大学では、現在は自然系科目を含めた一般教養の授業を中心

に、専門的な学習に備え、様々な分野を広く学んでいます。2年生からは化学プログラムを専攻し、自分と同じように化学が好き仲間と学べることを楽しみにしています。

課外活動では大学のよさこいサークルに所属し、幼い頃からやってきたよさこいに再び関わることになりました。



ました。また、そのつながりで地域のよさこい団体にも所属し、幅広い世代の方々との交流もできています。地域のお祭りに参加したり、9月に行われるにいがた総踊りに向けてホストチームの一員としてお祭り創りをしたりと地域と関わりながら様々な経験を積んでいます。

しかし、県内での進学ではあっても、よく知らない場所での一人暮らしは大変なことが多く、最初は不安だらけでした。今も不安な時もありますが、新潟大学は佐渡高校の卒業生も多く、学校で知っている人を見たり、話したりできるととても嬉しくなります。

また、佐渡を離れたことで佐渡の良さを改めて感じるが増えました。自然の豊かさを懐かしく感じたり、帰省して人の温かさ



を伝えたいと感じるようになりしました。

私は以前から、大好きな佐渡を過ごしやすく、魅力的な島にしたいという目標を持っています。佐渡では多くの方々が高校を卒業後に一度佐渡を離れます。私のように離れたことで佐渡の良さを改めて感じ、佐渡での生活を懐かしく思っている方も多いと思います。

私が学生の時、勉強は全く得意ではなく、特に運動は苦手でした。マラソン大会では3年間最下位でした。球技大会ではクラスの皆さんの足を引っ張ってしまうような存在だったと思います。

しかし、今はパワーリフティングの選手として活動しています。まさに私がアスリートになるとは思いませんでした。本当に人生は何が起るかわからないと思います。

興味があること、やってみたい事に挑戦し、継続し、人との出会いを大切に、皆様が持っている無限大な可能性を見つけていた

だいたいと思います。



今回、「蒼穹の下の蕾」の原稿依頼をいただき、昨年の記事を数えきれないほど読み、先輩がこのタイトルに込めた思いを感じると同時に、佐渡高校での友人がそれぞれの地で励む姿を想像し、勇気をもらいました。

私のように、佐渡高校同窓会のつながりを感じてくださる方が増え、この「蒼穹の下の蕾」という企画が長年続いていくものになることを願っています。今後も学生や卒業生の活動、活躍を温かく見守り支えてくださると幸いです。

学生時代は勉強も運動も 苦手でした



佐藤 南 (平成23年卒)

普段は相川地区で美容師として働いています。また、パワーリフティング選手としても活動しています。

プンし、美容室のお客様に勧められて入会し、ジムのオーナーの吉田さんと出会ったことから始まりました。

パワーリフティング経験のある吉田さんに基本的な事を教えてもらい

パワーリフティングとはスクワット、ベンチプレス、デッドリフトの3種目の最大挙上重量の総計を競うスポーツです。(オリンピックの競技ではありません。)

パワーリフティングとの出会いは6年程前に佐渡に本格的なジムがオ



出場しました。世界大会ではスクワットのしやがみが浅いということでした。格闘技というイメージの時とても悔しい気持ちでした。



その時の悔しい気持ちをバネにし、アジア大会に出場しました。アジア大会では準優勝という結果で、スクワットでは1位になることができました。

次目標は2024年12月中旬にウズベキスタンで行われるアジア大会に出場し、優勝したいと考えています。

また、国際大会は自己負担で出場しています。資金的に非常に厳しい現状で、今年の世界大会は出場できる権利はありませんが、資金面が厳しく出場を見送ることになりました。

今後国際大会に出場し経験を積んでもっと強い選手になりたいです。

やっと会えたね。還暦祝いの同期会!!

どうして、どうして、僕たちは、出逢ってしまっただの……運命?……宿命?……ただの偶然? 早いもので、昭和35、36年に生まれた我々も、現在63、64歳となります。60、61歳時に、還暦祝いの同期会を、早くから企画し、準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルスの影響を受け、先延ばしとなり、昨年8月12日に、やっと、浦島様にて、48名が集まり、開催する事が出来ました。皆、それぞれ、大小の心配事も、増えている様でしたが、この日だけは、とにかく、目一杯楽しんで欲しいと、あれこれと企画も考えました。何十年も会っていない旧友も、何の心配も無く直ぐに、高校時代の同級生に戻って、自然に盛り上がり、お酒とお料理を楽しみながら、自己紹介やじゃんけん大会、尽きない過去の話しや近況報告、時間の過ぎるのは、あっ!と言う間でした。更に、新穂中央青年会様の鬼太鼓の華麗で力強い舞いに感動し、ほぼ即席の同級生3名ユニット(Ntt)によるミニコンサートで、



笑い涙を誘い、その流れる程価値高く活かされる様、健康第一としながら、今からここから、日々大切に過ごして欲しいです。それと、各自、可能な限り、皆と出会えた、佐渡ヶ島も大切にしてください。宜しくお願い致します。

運命であれ、宿命であれ、ただの偶然であって、この島で大切な青春時代を共有出来た友人達を心から尊敬します、感謝します。

ありがとねー! 元気でねーまたね!

昭和54年3月卒業生(310名)(29回) 還暦祝い同期会幹事の一人 鈴木 忠

昭和四十七年卒同期会

五年毎に開いている同期会を、平成三十年の佐渡「八幡館」に続き、今回は令和五年十月十三日、恒例となっている湯沢「ナスパニユーオータニ」を会場に「古希に集う」と題して開催しました。

豊原久夫先生、有坂勝先生お二人の恩師にもご出席いただき、同期生五十九名の参加で、ホテル「一階「鳳凰」西の間に開催しました。

懇親会は、和服姿の佐藤久美子、八木千恵子両幹事の司会により進められました。金子敬二幹事作成の物故者紹介の動画上映、坂上雅弘幹事の代表挨拶の後、豊原先生の乾杯の音頭により懇親会が始まりました。

恩師ご挨拶の後、高校時代を振り返る「懐かしい写真館」の上映、クラスごとの近況報告が金子幹事の進行により進められました。皆の注目の中で熱弁をふるう者もおり時間がやや伸びてしまい、懇談の時間がほとんどない状況となってしまいました。最後に、校歌斉唱、当日が誕生日の戸村美香子さんの閉会挨拶、川崎新吾幹事の諸連絡で二時間三十分の



懇親会を終了しました。

その後、幹事部屋で二次会を行い、更に懇親を深め、心地よい眠りにつきました。

佐高卒業後五十二年が経過しましたが、恩師九名と同期生一四〇名が寄せてくれた近況報告、金子幹事の奮闘による卒業時の顔写真入りの名札、在校当時の思い出となる動画などにより、古希の姿でありながら、在校当時の青春の時にもどり、再会を喜び、恩師、同期生との交流を楽しんでいたのだのではないかと、思っています。

同期会 幹事一同

霧の原生林

倉田 史子

能登半島のはるかむこう
黒潮の流れの先に浮かぶ島に
千年をも黙って生きてきた樹の群れがある
一年の半分は残雪に覆われ
積雪は3mから4mにも及ぶ
雪解けは初夏六月になってしまうところ
大佐渡山脈金北山(さんぼくさん)の北側
標高九百mの県有林あたり
一歩足を踏み入れれば巨大な樹々が林立する
躍動する海からの水蒸気を含んだ風
森をおおいつくす霧
命の水をもたらす黒潮が作った絶景だ
そこは途方もなく長い時間を生きてきた樹が
木洩れ日のチラチラゆれる森の奥で
黙って立っているところ
日差しのおい 下草や土のにおい
幾重にも四方に広がる枝の先々に真つ青な空
山野草のはかげに虫たちの羽音さえ聞こえそう
誰も気に止めなかった時間を生きてきた樹
こんなふうな時間に時間をかけて生きることが
貴重なのだ
時間がないというふうにはばかり生きる人間は
樹の下では豆粒よりはるかに小さな存在だ
樹は時間の肖像かもしれない
能登半島のはるかかなた
黒潮の作った霧の原生林を持つ島に
黙って千年を生きてきた樹々がある

第38回国民文化祭(いしかわ百万石文化祭2023)

石川県知事賞受賞 作品

先輩に追いつけ！
在校生の活躍

令和五年度
(全国大会・北信越大会
出場クラブ)

本校からは、陸上競技部、囲碁将棋部、新聞部、書道部が全国大会に出場しました。

相川分校からは、バスケットボール部(男子)が、全国大会で優勝しました。

佐渡高校では、多くの生徒が部活動に所属し、日々の練習や活動に積極的に取り組んでいます。引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。

◎印は 全国大会
※印は 北信越大会

運動部

《本校》

◆陸上競技部

・全国高等学校総合体育大会

【やり投げ】

出場 渡邊 氣円 ◎

・JOCジュニアオリンピックカップU16陸上競技大会

【円盤投】

7位 濱辺 力也 ◎

・北信越高等学校陸上競技対抗選手権大会

【やり投】

5位 渡邊 氣円 ※

10位 藤原 靖大 ※

・北信越高等学校新人陸上競技大会

【1500m】

6位 高野 祐輔 ※

出場

【5000mW】

8位 余湖 悠星 ※

【円盤投】

7位 濱辺 力也 ※

【やり投】

10位 佐藤蒼一郎 ※

◆男子バレーボール部

・北信越高等学校新人大会

1回戦 0-2 岡谷工業 ※

◆女子バレーボール部

・全日本ジュニアオールスタードリウムマッチ出場

長嶋 百花 ◎

・北信越高等学校新人大会

1回戦 1-2 福井商業 ※

◆男子バドミントン部

・北信越高等学校体育大会

学校対抗戦

1回戦

0-3 高岡工業(富山) ※

・北信越選抜大会

学校対抗戦

2回戦

0-3 高岡第一(富山) ※

◆陸上競技部

・全国高等学校通信制陸上競技大会

1500m 齋藤 楓 7位 ◎

円盤投 齋藤 巧翔

砲丸投 本田 彪雅

5000m 平片 順也

齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔



相川分校バスケットボール部(男子)

《相川分校》

◆バスケットボール部(男子)

・全国高等学校定時制通信制体育大会 優勝 ◎

2回戦 66-46 県立浜名(静岡)

3回戦 110-80 都立青梅総合(東京)

4回戦 83-72 秀英(神奈川)

準決勝 98-62 都立八王子拓真(東京)

決勝 79-76 都立荻窪(東京)

◆書道部

・第24回高校生国際美術展

全国書道高等学校協議会理事

長賞 ◎

・令和5年度新潟県高等学校総合文化祭

新潟県高等学校文化連盟賞

仲川 美海 ◎

(令和6年全国総文2024出場)

◆2024年3月卒業生の主な合格先

筑波大学、北海道教育大学釧路校、弘前大学、山形大学(3名)、宇都宮大学、埼玉大学、千葉大学、東京海洋大学、愛媛大学、福岡教育大学、新潟大学(11名)、長岡技術科学大学、新潟県立大学(3名)、新潟県立看護大学(3名)、三条市立大学(2名)、都留文科大学、東京都立大学、明治大学、中央大学、法政大学、同志社大学、自治医科大学、日本大学、順天堂大学、東海大学など。

例年と同様、大学・短大進学率は、卒業生全体の約7割になります。令和6年3月卒業生の進学率は69%となりました。佐渡高校では、上級学校の受験で必要となる学力の育成に、日々取り組んでいます。また、生徒一人一人が進路希望を実現できるように、丁寧で的確な指導を続けています。引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

◆文化講演会

7月12日(金)、昭和38年に本校を卒業された浅島誠様(東京大学名誉教授・発生物学)を講師にお招きし、『令和6年度PTA文化講演会「ようこそ先輩」が佐渡高校第一体育館にて実施されました。

当日は、全校生徒・教職員、保護者・同窓生に「生命科学の現状と課題(科学進歩と人の関わり)」と題して、スライドを用いた講演をしていただいたうえ、講演会後に行われた質疑応答や座談会にも1つ1つに丁寧にご対応いただきました。

多くの生徒がお話に熱心に聴き入り、心に刻み、今後の進路を考える上での大きな指針となったことと思います。

◆《本校》

◆新聞部

・令和5年度全国総文2023

出場 ◎

◆囲碁将棋部

・令和5年度全国総文2023

出場 ◎

◆陸上競技部

・全国高等学校通信制陸上競技大会

1500m 齋藤 楓 7位 ◎

円盤投 齋藤 巧翔

砲丸投 本田 彪雅

5000m 平片 順也

齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

5000m 齋藤 巧翔

過去5年間の卒業生の進路先

	2024	2023	2022	2021	2020
国公立大学	37	38	36	51	40
私立大学	58	65	84	61	72
国公立短大	2	2	1	1	2
私立短大	3	4	4	9	7
専門学校	31	31	34	46	38
就職	7	9	5	4	5
その他	7	4	8	7	3
卒業人数	145	153	172	179	167

文化講演会

7月12日(金)、昭和38年に本校を卒業された浅島誠様(東京大学名誉教授・発生物学)を講師にお招きし、『令和6年度PTA文化講演会「ようこそ先輩」が佐渡高校第一体育館にて実施されました。

当日は、全校生徒・教職員、保護者・同窓生に「生命科学の現状と課題(科学進歩と人の関わり)」と題して、スライドを用いた講演をしていただいたうえ、講演会後に行われた質疑応答や座談会にも1つ1つに丁寧にご対応いただきました。

多くの生徒がお話に熱心に聴き入り、心に刻み、今後の進路を考える上での大きな指針となったことと思います。

◆《本校》

◆新聞部

・令和5年度全国総文2023

出場 ◎

◆囲碁将棋部

・令和5年度全国総文2023

出場 ◎

◆陸上競技部

・全国高等学校通信制陸上競技大会

1500m 齋藤 楓 7位 ◎

円盤投 齋藤 巧翔

砲丸投 本田 彪雅



【お願い】

同窓会事務局へのご連絡は、事務局職員の居る左記の時間にお願いたします。

毎週月曜日・木曜日

9時~12時

電話番号

0259-57-3416(直通)

FAX

0259-52-5253

メールアドレス

sados-dousou@sadosv.com

※住所変更・訃報のお知らせなど、ハガキ、FAXまたはメールでいただけますとありがたいです。



佐渡高等学校同窓会
公式LINE
(2023年スタート)

同窓会発行の書籍について

佐渡高校同窓会発行の書籍の在庫があり、下記の価格で頒布しています。(知り合いで歴史に興味のある方がいましたら、ご紹介下さい。)



▼問い合わせ・購入は同窓会本部事務局まで
(電話 0259-57-3416)

- | | | |
|--------------------|-----|----------|
| ●同窓のおとずれ | 送料込 | 5,000 円 |
| ●佐渡高等学校百年史 | 送料込 | 3,000 円 |
| ●近世先賢書簡集(萩野由之博士蒐集) | 送料込 | 10,000 円 |
| ●伊藤氏日記 | 送料込 | 5,000 円 |

令和 6 年度 同窓会役員名簿

監査	監査	監査	顧問 (校長)	顧問 (紫苑会)	顧問	顧問	顧問	副会長	副会長	副会長	副会長	会長
児玉功	中川恒男	濱田毅	川上豪	天池範夫	弾正俊一	中山秀英	中川哲昌	引野紀子	石見裕子	林隆行	永田治人	鈴木啓介

羽茂支部長	真野支部長	畑野支部長	新穂支部長	岡・吉井支部長	金・吉井支部長	金沢支部長	八幡支部長	二宮支部長	河原田支部長	沢根支部長	二見支部長	相川支部長
小橋敵膺	山本充彦	渡部義雄	板垣徹	甲斐元也	西田健司	畠山茂樹	金子邦朗	渡辺直樹	林隆行	近江和芳	坂本久和	竹田裕

小本支部長	深野俊之
赤泊支部長	金田淳一
松ヶ崎支部長	計良武彦
岩首支部長	西美和子
水津支部長	清田惠
河崎支部長	大場憲榮
両津支部長	尾瀨恒雄
加茂支部長	安福征矢
内海府支部長	木村和彦
町・外海府支部長	
相外海府支部長	地多正光
高千支部長	山本雅明
金泉支部長	今井茂樹

評議員	摩尼義晴
評議員	本間栄三郎
評議員	山本ミチ子
評議員	浅島誠
評議員	須藤健一
評議員	関川敬義
評議員	和泉徹
評議員	立壁邦子
評議員	古賀洋子
評議員	北見千香子
評議員	山下英子
評議員	中山道夫
評議員	金森大蔵

評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員
大崎直樹	加藤恭子	川上治	斎藤英夫	吉田秀樹	村田慶朗	渡部尚	加藤健	関根敬子	岩崎隆寿

寄贈圖書抄

令和5.7月～令和6.7月

著 著 名	著 者 名	寄 贈 者	年月
季刊 朱鷺 第58・59. 60・61号	朱鷺俳句会 赤塚 五行	赤塚 守(昭和44年卒)	令5.7～
金融サービス企業のグローバル戦略	青野 正道 北林 雅志 赤石 篤紀	匿名	令5.11
金融ビジネスの歴史	青野 正道	匿名	令5.11
北 一輝がゆく 国家改造法案と二・二六事件	中川 芳郎	中川 芳郎(昭和36年卒)	令6.1
観潮楼の月 森鷗外夫妻の愛十四話	町田 育代	町田 育代(昭和26年卒)	令6.4

昭 和 38 佐 高	昭 和 44 佐 高	昭 和 23 佐 中	昭 和 23 河 高 女 併 中	昭 和 59 佐 高	旧 職 員	昭 和 33 佐 高	昭 和 18 佐 中	昭 和 22 佐 中	昭 和 20 佐 中	昭 和 28 佐 高	昭 和 30 佐 高	旧 職 員	昭 和 40 佐 高	昭 和 43 佐 高	昭 和 38 佐 高	昭 和 31 佐 高	昭 和 39 佐 高	昭 和 25 河 高 女	昭 和 28 佐 高	昭 和 54 佐 高	昭 和 22 河 高 女	昭 和 26 佐 定	昭 和 29 金 沢	昭 和 20 佐 中	昭 和 20 佐 中	区 分
関 川 重 平	西 田 裕 司	井 上 健 三	佐々木(高津)いく江	酒 田 孝 之	本 間 和 城	横 田 貞 夫	古 藤 怜 加 茂	菊 池 徹 新 穂	石 井 治 雄	隅 田 二 十 四 二 宮	佐 藤 澄 夫	青 木 一 男	菊 地 敏 彦	倉 内 宗ノ助	丸 山 治	細 沼(市橋)才子	須 藤 正 義	金子(加藤)三従子	岩本(尾崎)節子	高 津 修	井 長 幸 子	萩 田 清 行	池 一 誠	高 野 透	川 村 裕	氏 名
河 原 田	吉 井	両 津	小 木	相 川		新 穂	新 穂	新 穂	内 海 府		外 海 府	真 野	二 宮	二 宮	沢 根	沢 根	二 宮	小 木	二 宮	二 宮	金 沢	二 宮	西 蒲 原	出 身		
令和4年10月	令和4年10月	令和4年10月	令和4年9月	令和4年9月	令和4年9月	令和4年9月	令和4年9月	令和4年8月	令和4年8月	令和4年7月	令和4年7月	令和4年6月	令和4年4月	令和4年3月	令和4年3月	令和4年2月	令和4年1月	令和3年12月	令和3年12月	令和3年11月	令和2年8月	令和2年8月	令和2年3月	令和元年8月	令和元年8月	年 月

区分氏名				出身	年 月
昭和30佐高	長	隆	郎		令和4年11月
昭和30佐高	清水	嘉	和	河原田	令和4年11月
昭和26佐高	青木	茂	夫	松ヶ崎	令和4年11月
昭和27佐高	伊藤	藤	一	二宮	令和4年11月
昭和43佐高	和田	清	一	金沢	令和4年11月
昭和54佐高	細野(大石)	久美子	岩首		令和4年11月
昭和36佐高	金子	弘	真野		令和4年12月
昭和21河高女	本間(明畑)	妙子	二宮		令和4年12月
昭和32佐高	池田(木下)	英夫	吉井		令和4年12月
昭和25旧高	山下	良一	両津		令和4年12月
昭和35佐高	高野(細野)	順子	畑野		令和4年12月
昭和33佐定	清水	利広	沢根		令和5年1月
昭和28佐定	加藤	高	真野		令和5年1月
昭和14河高女	津端(矢ヶ崎)	ちさ	真野		令和5年1月
昭和29佐高	安田	稔	新穂		令和5年1月
昭和35佐高	太田(若林)	直子	羽茂		令和5年1月
昭和34佐高	田中	弘	相川		令和5年1月
昭和23河高女	柴田(荒井)	あい子	新穂		令和5年2月
昭和33佐高	石塚	信之	金沢		令和5年2月
昭和41佐高	相羽(山本)	展子	二宮		令和5年2月
昭和28佐定	林	辰一郎	沢根		令和5年2月
昭和33佐高	三浦	芳之	新穂		令和5年2月
昭和27佐高	本間(加藤)	武二	二宮		令和5年2月
昭和38佐高	後藤	博明	新穂		令和5年3月
昭和26佐高	渡部	章	松ヶ崎		令和5年3月
昭和41佐高	白井	昌隆	羽茂		令和5年3月

区 分	氏 名	出 身	年 月
昭和39佐定	伊 藤 洋 志	畑 野	令和5年3月
昭和35佐高	安 田 邦 英	河原田	令和5年3月
昭和27佐定	田所（大水トシエ	二 宮	令和5年3月
昭和30佐高	前田（金子）喜子	河原田	令和5年3月
昭和23河高女	本 間 圭 子	八 幡	令和5年4月
昭和37佐高	名 畑 三 十 六	二 宮	令和5年4月
昭和33佐高	安 藤 昭 春	畑 野	令和5年4月
昭和29佐高	鈴 木 暢	畑 野	令和5年4月
昭和33佐高	遠 藤 怜	八 幡	令和5年4月
昭和39佐高	榎（中川）洋子	畑 野	令和5年4月
昭和25女高	山田（土屋）悦子	新 穂	令和5年5月
昭和43佐高	福田（廣満）ミチ子	吉 井	令和5年5月
昭和28佐高	高 橋 博 明	河原田	令和5年5月
昭和28佐高	田中（佐々木）越江	沢 根	令和5年5月
昭和27佐高	近 藤 栄 次	高 千	令和5年5月
昭和28佐高	石川（本間）タカ	八 幡	令和5年5月
昭和28佐高	保科（本間）たづ子	二 宮	令和5年6月
昭和28佐高	高 野 智 子	八 幡	令和5年6月
旧 職 員	岡 村 茂		令和5年7月
昭和38佐高	池 田 雄 彦	吉 井	令和5年7月
昭和20河高女	森（尾畑）道子	真 野	令和5年7月
昭和22河高女	三国（中川）アイ子	加 茂	令和5年7月
昭和21佐中	斎 藤 昭 夫	両 津	令和5年7月
昭和44佐高	実成（矢田）雅子	真 野	令和5年7月
昭和38佐高	三 浦 敏 彦	水 津	令和5年7月
昭和26佐高	一 橋 守	小 木	令和5年8月

区分	氏名	出身	年 月
昭和26佐高	高 昌 東 士	畑 野	令和5年8月
昭和21河高女	鈴木（本間）チエ	河 崎	令和5年8月
昭和41佐高	本 間 隆 夫	二 宮	令和5年8月
昭和31佐高	本間（内藤）洋子	河原田	令和5年9月
昭和24河高女	本間（瀧川）冷子	沢 根	令和5年9月
昭和30佐高	大 瀧 尚 子	二 宮	令和5年9月
昭和27佐高	安 藤 勝	金 沢	令和5年9月
昭和30佐高	才 川 熙	河原田	令和5年11月
昭和33佐高	石 塚 勝	真 野	令和5年11月
昭和28佐高	ポーター（甲斐）三千代	吉 井	令和5年11月
昭和26佐高	加 藤 洋	吉 井	令和5年11月
昭和30佐高	磯野（井長）満利子	二 宮	令和5年12月
昭和28中央	赤 塚 福 雄	金 沢	令和5年12月
昭和33佐高	久 保 誠 一	二 宮	令和5年12月
昭和34佐高	中 川 雅 晴	河原田	令和6年1月
昭和35佐高	土屋（高野）登志	二 宮	令和6年1月
昭和30佐高	古 藤 齋	新 穂	令和6年1月
平成8佐高	渡 部 崇	新 穂	令和6年1月
昭和31佐高	幡 豆 一 三	松ヶ崎	令和6年2月
昭和32佐高	岩 崎 賢	二 見	令和6年4月
昭和28佐高	脇 野 久三郎	吉 井	令和6年5月

編輯後記

◆同窓会会員の皆さまにおかれましては、日頃より同窓会の活動にご支援とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。皆さまのご協力のおかげで、今年度も『同窓会報』を発行することができました。ありがとうございます。会報を通じて、同窓会活動が活性化し、同窓生各位の絆がさらに強くなることを願っております。

◆同窓会の維持会費につきましても、多くの会員の方に納めていただき感謝しております。引き続き会費の納入をお願いします。今回の『同窓会報』にも、会費を納めていただいた方のご芳名をあげさせていたいただきます。

◆令和六年度も、昨年同様に鈴木会長のもと同窓会総会及び懇親会も実施します。ぜひご参加ください。

※会報の原稿をお送りいただく場合は、六月末日まで
 にお願いたします。

訃報

令和5年8月から令和6年7月20日までに事務局に連絡のあった方々です。生前のご厚誼を感謝し謹んでご冥福をお祈りいたします。